

神緑会ニュースレター

第2巻 第1号

発行日 2010年7月20日



目次	ページ
神緑会 平成22年度定例総会報告	2, 3
神緑会活性化のための討論会について	4, 5
定例総会・討論会・懇親会のスナップ写真	6, 7
田中千賀子学術奨励賞・研究助成金授与式	8
第43期生卒業謝恩会	9
医学部新入生挨拶	10
新入生歓迎合宿報告	11
iPS細胞研究所・新研究棟が完成しました	12
神戸大学医学部医学科後援会会長を終えて	13
第5回神戸大学ホームカミングデイのご案内	14
ホームカミングデイ医学部医学科(10月30日)／平成22年度医学部医学科学生海外派遣要項	15
医学部クラブ紹介・編集後記	16

平成22年度社団法人神緑会 定例総会と新役員を選出

かねてからご案内の様に、一般社団法人法の施行により、社団法人神緑会は平成20年12月から特例民法法人になりました。5年以内に手続きを終了する必要がある、一般法人か公益法人かの選択の為の検討を続けて参りましたが、移行申請の最終局面になりました。行政書士百合岡事務所の指導下に理事会・評議員会で申請手続きのための検討を重ね、6月26日の総会では、定款と会員規則の変更をまとめて提案しました。最終承認されましたので、速やかに一般社団法人への移行手続きに入ります。

定款変更の骨子

会員 の項目で、第8条で（1）正会員、（2）特別会員、（3）名誉会員に加えて、（4）に賛助会員を新設しました。

社員総会 の項目では、総会要件での過半数以上の会員の出席を確保するため代議員制を念頭に検討しましたが、会員の積極的な参加を求めるためにも直接民主制として位置づけ、総ての正会員で構成されることとなりました。第21条で、役員選任を直接の投票で決定する事になります。従来は、理事、評議員（クラス代表と各支部の代表）のみが選挙権および被選挙権を有していましたが、今後は全正会員がその権利を有します。

役員 第28条で 理事 6名以上15名以内 監事 2名以上3名以内としました。理事会では、委任状が無効のため、理事は常に出席することが求められます。そのため、現行の20名以内から、15名以内に人数変更しました。

今回の変更についての議論の中では、会費の未納が2年以上で資格の喪失となる点について疑義が述べられました。納入により直ちに会員資格が復活する事や現行でも、卒業生の6割弱しか社団法人会員でなく、運営上は同窓会として全員に差別無く、会誌などを送付しています。運営面での工夫や周知する努力が求められます。

新役員を選出

平成22年3月27日に選挙管理委員会を立ち上げて、現行規程に基づく過程を経て、6月19日に選挙を実施しました。その結果、以下の理事、監事を選出しました。同時に、移行登記を前提として発効する新役員を選出しました。

代表理事（会長）	前田 盛	（46）	業務執行理事（副会長）	大洞 慶郎	（46）
業務執行理事（副会長）	山崎 峰夫	（56）	業務執行理事（副会長）	宮本 正喜	（59）
業務執行理事（常務理事）	田中 邦彦	（42）			

現行規則では、理事長、副理事長と常務理事に相当します。

理事	恵美 裕一郎	（43）	大竹 邦夫	（44）	千原 和夫	（45）
	奥町 富久丸	（48）	藤盛 孝博	（49）	長谷川 修	（52）
	三浦 靖史	（01）	吉田 優	（04）		
監事	永井 公尚	（37）	山中 弘光	（43）	小林 和幸	（09）

括弧内 卒業年度 昭和および平成（0が前に）



神緑会理事長 前田盛

二年間の活動と新役員としての抱負

神緑会理事・監事一同

当初の想定通りとも言えますが、この二年間は新しい法人への移行の準備期間と位置づけられ、その目的は滞りなく達成されつつあります（行政庁の審査待ち）。それでも、多くの会員から早く開催しろとの呼び声の高かった、山中伸弥（62年卒）京都大学教授をお迎えしてのラスカー賞受賞記念講演を平成22年2月13日、多くの会員と共に盛大に祝うことが出来ました。同様に、支部の名称はあったものの実質的な活動の無かった神戸大学学内支部の活動について、高井研究科長・学部長と杉村病院長のご支援の下、産婦人科 山崎特命教授を支部長として活発に行う目処がつかしました。以上の活動については、関係者のご協力に深く感謝します。

神緑会活動の歴史に大きな転換点となる新たな二年間がスタートしました。社団法人として、昭和59年に文部省から認可され、その後創立50周年記念事業として神緑会館を建設しました。創立60周年記念事業では、共同研究館の全面改修と耐震化、同館の直ぐ横に一部動物舎を兼ねた寄附建物を建設しました。これらの一連の活動には、神戸大学医学部医学科との連携が重要でしたし、社団法人神緑会の設立は、創立40周年記念事業として提案され、10年後に文部省の認可に至りましたが、基本財産の積み上げに先輩諸氏の多くの努力があったことは改めて申し上げる必要がないほどです。この時期の卒業生には、卒業時に終身会費として納付したのに、社団法人への移行に伴い6年分の年会費と振り替わりました。毎年度の会費無料のはずが入会金や年会費を再度納める必要が起きました。この経緯は解りにくく、わだかまりを生みました。学内の同窓会では凌霜会（経済、経営、法学の学部）とKTC（工学部）のみが法人化されています。この折角の苦労が、一般社団法人法の施行により、平成22年度末には、一般社団法人神緑会に完全移行する予定です。基本財産が予定の9年間で公益目的に限定されますが費消する（最終的にゼロにする）事になりますが、この期間は、非常に大切と考えています。これまでの一年間の活動費に相当する費用を毎年使うのですが、9年後に公益目的で蓄積された財産がゼロになることを意味します。

一方では、神緑会が同窓生にどうしても必要と理解されていないとの考え方があります。医学部在学中には、神戸市という海に開かれた恵まれた地域にあって、世界や国内でも広く兵庫県以遠に雄飛する能力を磨く様に教育されます。その考えは、大阪や京都に近い中でも、山中教授の言葉、「神戸は、未だ平幕かも知れないが、時に横綱を倒す能力を持っている」に代表される活気を生んで来ました。多くの学生が「神戸の町は好きやけど、神戸大学にはもう一つ愛着がわからない」と言っているとされています。世界に開かれた大学の宿命かも知れませんが、どこで暮らそうと神戸大学卒は変わりません。改めて卒業生全員のそれぞれの立場で、第三の道を探す時代になっていると確信します。予算も人員も少ない中でのこれまでの神緑会活動でしたが、当面の9年間は予算に恵まれます。この号の中で、総会での討論会の記事がありますが、慶応大学や京都大学の事例研究を参考に神緑会の新たな道を先頭に立ってリードします。優秀な学生が入学する神戸大学の若手の資源を有意義に生かす道を構築しましょう。ご支援宜しくお願いします。

「神緑会活性化のための討論会に参加して」 力武良行（平成4年卒）

平成22年6月26日（土曜日）の神緑会総会（於神緑会館）にて開催された「神緑会活性化のための討論会」にパネリストとして参加させていただきました。

私自身、神緑会の総会に出るのは初めてのことで、これまでは神緑会の活動への関心が薄く、あまり積極的に関わってこなかったと思います。

当日は、神緑会副理事長の吉田優先生（平成4年卒）、小林和幸先生（平成9年卒）の司会のもと、パネリストとして、学内支部の神戸大学産科婦人科特命教授の山崎峰夫先生（昭和56年卒）、慶応大学教授の佐谷秀行先生（昭和56年卒）、京都大学教授の千葉勉先生（昭和49卒）、若手の代表として私が発表を行いました。



討論会内容

山崎先生からは、「大学を主体とした活動」と題して、昨年、学内の神緑会会員の有志が集まって神緑会学内支部の活性化のために話し合いの会がもたれたことが報告されました。その会において、学内支部の活性化が必要との共通認識により、学内支部に世話人をおく必要性や会員名簿の整備の必要性が指摘されたことを報告されました。

続いて、「他大学での状況と神戸大学の課題」と題して、佐谷先生からは、慶応大学での同窓会の状況について、慶応大学では私学なので大学の運営が寄附に大きく依存しており、大学と同窓会との結びつきがとても強く、卒後25年で卒業式に招待されること、毎月8頁の新聞が発行され郵送されてくるこ

と、その内容には、同窓会のこと、学生のことなどが掲載されていること、基本的に卒業生や学生に愛校心が強く医学部に貢献したいという意識が強いこと、慶応大学には基礎、臨床での功績をたたえる賞がそれぞれあり、その他受賞などの功績を新聞に掲載してどんどんアピールしていることなどが紹介されました。

さらに、同窓会長は毎日大学に顔を出し、同窓会の運営が非常に活発に行われていることや新聞の編集等の業務には専門家のスタッフが携わっていることが紹介されました。

千葉先生からは、京都大学での同窓会の状況について、京都大学は慶応大学とは全く好対照に、表立った同窓会の活動はなされておらず、同窓会費の徴収もないが、同窓会館の建設などの事業では有志でされたことが紹介されました。同窓会新聞が年に3-4回発行され、病院長や学部長の挨拶に始まり、同窓生の集まりなどの行事の報告が記載されているとのことでした。同窓生の集まりでは、学術講演会が開かれたり、関連病院の関係者が集まり、医療の問題等について活発なディスカッションがなされたり、参加者に取って実質的、実務的でとても盛会であることが紹介されました。

最後に私からは、「若手から見た期待と課題」と題して、同期からのメールで回収した意見を集約して発表させていただきました。

若い会員の総会への参加者は非常に少ないことを指摘し、若い会員は神緑会のメリットを感じていないために、神緑会に関心がない現状を問題提起させていただきました。神緑会に期待することとして二点あげ、一点目は、神戸大学の卒業生をフォローする組織として機能して欲しいこと、即ち、特に若い会員の連絡先を把握して神戸大学からアプローチできるようにして欲しいこと、さらに、神戸大学や関連病院に戻る相談ができる窓口として機能して欲しいこと、このような意見が多いことをあげました。そのためには、学生時代から、もっと神緑会からアプローチして、学生の身近な存在になるようにする必要があることを指摘致しました。

もう一点は、勤務医会員を擁護し助ける組織として機能して欲しいこと、例えば、医療トラブルに関する報道の際、医師側からみて納得のいかないコメントに対して毅然として抗議をしてもらうなど、医療者側からみて不正な報道・判決に対し、断固として正義を糾す機関として機能して欲しいと言う意見があることを報告しました。

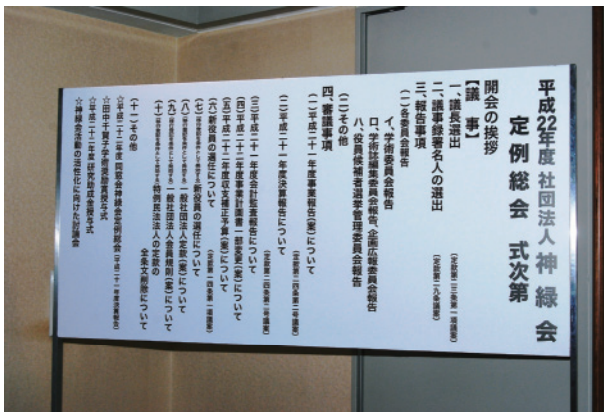
4名のパネリストの発表後、フロアからの意見として、代診をお願いする窓口や医療保険への団体加入等、開業医にもメリットがあるようにしてほしいとの意見や、メールにてニューズレターを送信してはどうか、など、活発な討論が行われました。

高井研究科長よりは、神緑会会員が大学に来たり、会員が集まったりしやすいようにホームカミングデイと学年同窓会の同日開催をお願いしている状況などの説明がありました。山辺裕加西市民病院院長（52年卒）からは、「自治体病院の危機が言われていますが、運営状態が改善する病院では、病院長も大事だが事務局長が頑張っている。神緑会活動でも医師だけが頑張っても無理で、事務方で支える活発で、経験のある人が必要である。コアをいかに組織するかが大切だと思います。」との意見がありました。

神緑会総会への出席は初めてでしたが、本討論会への参加はとても有意義なものでした。今回の本討論会一回だけでは、神緑会の活動の活性化に即効性のある決定的な妙薬はまだ見つからなかったと思います。しかし、本討論会のように機会あるごとに活発な議論、討論を繰り返すことにより、世代間のギャップや立場の違いから来る考えの相違が狭まり、会員間での相互理解が深まるものと期待されます。そうすれば、自ずと仲間意識が強まり、神緑会の活動への賛同もより多く得られ、本会の活性化につながるのではないのでしょうか。討論会参加者の意見として、是非、今後も今回のような討論会が開催され、活発な討論が継続されますことを希望しております。



定例総会・討論会・懇親会 風景いろいろ



46年卒 前田盛 先生



議長 32年卒 田淵健次郎 先生



43年卒 山中弘光 先生



52年卒 中野康治 先生



27年卒 藤澤直行 先生



49年卒 千葉勉 先生 56年卒 佐谷秀行 先生



49年卒 高井義美 研究科長



H4年卒 力武良行 先生



52年卒 山辺裕 先生



懇親会



懇親会冒頭挨拶 26年卒 小林正義 先生



懇親会



受付を守る例年のスタッフ

平成22年度 田中千賀子学術奨励賞・研究助成金授与

平成22年度神緑会定例総会において、神戸大学大学院医学研究科・分子病理診断学分野の北澤理子特命准教授が、『破骨細胞分化を制御する分子機構の解析』についての研究業績を評価され、田中千賀子学術奨励賞を受賞され、その授賞式を行いました。田中千賀子先生が学会出張に重なり、欠席のため、理事長から北澤先生に表彰盾と賞金が授与されました。

また、平成22年度の研究助成金の授与式もその後、引き続いて行われました。助成金の授与者は以下の通りです。



高橋竜一	西播磨病院・神経内科	レビー小体型認知症の灰白質ならびに白質萎縮部位の検討
山口聡	県立がんセンター・婦人科	明石市における子宮頸癌の若年化とその予防ワクチンの公費接種に関する調査研究
河合恵介	市立加西病院・内科	急性心不全、特に心収縮力の保たれた心不全(拡張不全)における血清β2マイクログロブリンの予後規定因子としての役割についての検討
津村英隆	県立がんセンター・消化器内科	非ステロイド抗炎症薬による胃粘膜障害に関与する危険因子の同定とバイオマーカーの確立
梶本和義	県立がんセンター・病理診断科	骨髄増殖性腫瘍の病理標本を用いたJAK2V617F定量解析
浅原俊一郎	神大医・糖尿病・代謝・内分泌内科	マウス膵β細胞株におけるインスリンシグナルのエピジェネティクス制御に関する研究

助成金額 30万円～50万円

総額 200万円



第43期医学部卒業生 謝恩会を終えて 上田舞（平成22年卒クラス代表）

お忙しい中たくさんの先生方にご出席いただき、大変にぎわった謝恩会になったのではないかと考えております。はじめに先生方に感謝の気持ちを伝えさせて下さい。本当にありがとうございました。楽しんでいただけたでしょうか。イベント盛りだくさんでしたが、お話も十分にできましたでしょうか。ご意見があればよろしくお願い致します。次の代に伝えていきたいと思っております。

謝恩会委員を務めることになり、こんな人脈のない私で大丈夫なのだろうかと不安でした。至らないことだらけでいろいろな方にご迷惑をおかけしました。しかし、同じく謝恩会委員の山口充さん、荒井君、横山君、昨年の謝恩会委員の先輩方、教務係の方々、快く協力してくれた同期、たくさんの人たちのおかげで無事終えることができました。特に、出し物はそれぞれの担当に完全に任せていたので大変だったろうと思います。謝恩会当日、何度感動しみんなに尊敬の念を抱いたことかわかりません。素晴らしい同期に恵まれたなあと思わずにいられませんでした。

謝恩会委員を務めたことで、人との繋がりを大切にできる人間になりたいと改めて感じました。卒業してからもお世話になった先生方への感謝を忘れずに、同期との繋がりを大切に、またこれから出会う人たちとの出会いを大切にしていきたいです。

私は神戸大学に残り初期研修をしております。他大学出身の同期、スタッフが多いので出会いに恵まれています。神戸大学卒業だと胸を張って言えるように、神戸大学の名に恥じないよう努めていきたいと思っております。



2010.3.25

神戸大学医学部医学科に入学して 河本達也(医学部医学科1年)

はじめまして、神戸大学医学部医学科一年の河本達也です。私は再受験で、一度別の大学を退学し、留学の後、神戸大学に入学しました。医師を目指した理由を短くまとめると、自分という一人の人間の資源を最大限活用したいと思ったからです。そして国境に関わりなく医師を必要としている場で働きたいと考え、国際性に富む神戸大学を目指すことに決めました。

現在入学して二ヶ月ほど経ちました。友達もできて大学にも慣れ、また学年代表という職も任せてもらいプレッシャーを感じながらもすごく充実していると感じます。しかし、生活の変化に流されて当初の目的である国際的に働ける医師になるという目的を忘れることなく勉強し続けなければならないとも感じています。なのでそのために学生時代の目標としてまず、六年次にある医学科学生海外派遣においてハワイ大学への派遣枠に入ることと決めました。それを満たすためにはTOEFLで良いスコアを取らないといけないのでそれを今後四年以内にとれるよう勉強していきたいです。



新入生全員
集合！！
於) 6階大講堂



新入生歓迎合宿に行ってきました！

1. 目的：神戸大学医学部入学に際し、単位修得のガイダンスや、教職員・先輩学生を交え、今後の医療・研修を担うべき医師像について話し合い、医学科学生としての自覚を高める。
2. 日程：平成22年4月2日（金）～3日（土）
3. 場所：国民宿舎 慶野松原荘 兵庫県三原郡西淡町 Tel 0799・36・3391
4. 参加者：新入生約103名 教職員7名程度 4回生約25名
教職員出席者：4／2・3両日 野口和俊学務課係長
4／2日帰り 高井学部長，上野教学委員長，
4／3日帰り 平田先生・味木先生・山崎先生
5. 携帯品：医療保険証（健康保険証等）、筆記用具、洗面用具、寝間着、常備薬（酔い止め、痛み止め等）、おやつ、2日の昼食、その他必要なもの
6. 経路 往復とも貸しきりバスを利用

7. 日程表

第1日目 4月2日（金）

10：00	医学部 B講義室に集合、手続き	
11：00～11：40	昼食（大講義室にて、各自持参のこと）	
11：40～	4回生による説明 バス乗車、出発	
13：30	慶野松原荘到着	
14：00	新入生ガイダンス	司会進行：学務課
14：00	学部長挨拶	
14：30	カリキュラムの説明等修学上の注意	教学委員長
15：30	質疑	
16：15	学務課からの連絡事項	学務課
	司会進行：学務課	
16：45	クラブ紹介	
18：30	立食パーティー	
20：00	入浴・自由時間	
23：00	就寝	

第2日目 4月3日（土）

7：30	起床	
8：00	朝食	
9：00	先輩学生によるアンケートへの回答、アドバイス ゲーム	
10：00	先輩と語ろうシリーズ記念講演 平田先生・味木先生・山崎先生	
11：30	慶野松原荘出発	
13：00	医学部 図書館前到着、解散	

京都大学 iPS細胞研究所の新研究棟が 完成しました！！



世界初のiPS細胞に特化した研究機関として、iPS細胞研究所が4月1日付けで京都大学に設立されました。研究所長は、世界に先駆けてiPS細胞の作製に成功した山中伸弥教授です。若手からベテランまでの研究者が4つの研究部門(初期化機構研究部門、増殖分化機構研究部門、臨床応用研究部門、規制科学部門)に分かれて、この画期的な技術を医療として患者さんに届けるべく、iPS細胞を用いて病気の原因を探る、新しい治療法を開発する、細胞移植に関する研究を行うなどの目標に向かって研究を進めています。

研究所が設立される前は、物質—細胞統合システム拠点(iCeMS)という京大の1つの研究機関内の組織、iPS細胞研究センターとして、2008年1月22日から研究活動を始めていました。当時は小規模でスタートしましたが、現在では、主任研究者、研究員、技術者、研究を支援する事務部門(研究戦略本部と事務局)の職員合わせて約120人の大所帯です。今年2月には、新しい研究棟が吉田キャンパスの病院構内に完成し、教職員一同がこの研究棟で働いています。

研究所の2010年度の年間予算は、20億円以上を予定しています。この予算は、運営費交付金、競争的資金という公的資金や個人や企業からの寄付金により確保されます。競争的資金には、内閣府「最先端研究開発支援プログラム」から配分される今後4年間で合計50億円という資金も含まれます。研究が進む2012年度頃には約200人の構成員が必要で、予算規模も拡大すると予想しています。

iPS細胞研究所の通称は、CiRA(サイラ)です。これは、研究所の英語表記であるCenter for iPS Cell Research and Applicationの頭文字をあわせたものです。

【CiRAニュースレターから引用】

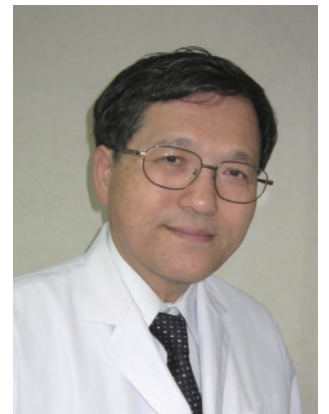
青井貴之(H10年卒)同所教授より資料提供

神戸大学医学部医学科後援会理事を卒業して思うこと

平成21年度後援会会長 猪股工矣 (S46卒)

平成22年春、娘の卒業と同時に私も理事の大役を無事に終えました。医学部を卒業して40年、母校で再び仕事をすると夢にも思っておらず声がかかった時は驚愕しました。何もたいしたことは出来ずうろうろした6年間でしたが今は2回目の卒業を迎えたような気持ちです。最後の1年は会長をつめさせていただきましたが多くの皆様のご協力ですつがなく過ごせましたことを心から感謝しています。

後援会は医学部医学科学生の福利厚生および医学部医学科発展に寄与することを目的に結成されたもので、医学科に在籍する学生の保護者が会員です。各学年に4名の理事が選出され年数回の理事会と1回の総会を開催しています。主な仕事は入学時に御父兄からいただいた後援会費の運用および学科長を初めとする諸先生方との懇談会を通じて医学教育上の諸問題や後援会側からの要望等話合うことです。具体的には図書館に学生側から要望のあった医学書の寄贈、学生の海外留学費用援助、部室の空調機や温水機取替え等多岐に渡ります。平成19年医学部60周年記念事業に1千万円を寄付しさらに同年6月病院内に学生及び職員専用の保健管理室(看護師常在)が出来たことは記憶に残る出来事でした。



医学教育制度特に卒業後教育制度の変更や国家試験合格率に関する問題を知るたびに時代が大きく変化した事を実感しました。また前田盛先生(現兵庫県病院事業管理者)が学部長であったころから学生に白衣を渡してほしいとの要望が大学側から出ておりましたが、諸般の事情で実現していませんでした。理事会で色々と討議の結果平成21年度から白衣を卒業時に記念品として贈ることとなりましたが、慶応大学をはじめとした多くの大学では、これから臨床実習に参加する新5年生に臨床医としての自覚を促す白衣式を通じて贈るのが一般的なことから大学側に白衣式の創設を提案いたしました。22年度からは様子が変わると思われます。

特に私が忘れられないのは、後援会からも強く要望したこともあって、平成20年3月に教授会で医学部敷地内禁煙が決定され実現したことです。近畿地区の多くの医学部ではかなり以前から実施されており神戸は最後のグループになります。一時期これらの実施は不可能かと思われましたが 当時の学部長千原和夫先生(現兵庫県立加古川医療センター院長)を初めとする多くの関係各位のご協力があった実現いたしました。今更改めて言うまでもなく副流煙をはじめとして喫煙の害は科学的に完全に証明され異論をはさむ余地はありません。平成8年米国食品医薬品局(FDA)はニコチンを薬物と認定し『たばこはニコチンの注射器』と表現した事もあってか先進国では完全に有害物として認定され麻薬のような扱いになっています。日本は先進国中たばこに関して最も遅れた国です。その理由は日清、日露戦争後赤字になった明治政府が広く国民から税金を徴集する目的でそれまで各藩の地場産業だった煙草の生産販売を国営化した事実を考えてみるとよく理解できます。民営化された今でも株の半分は財務省の物ですので実質的に国営事業です。他の先進国は国を挙げて禁煙活動に取り組みますが、世界中に例のないたばこ産業を守るために作られ『たばこ事業法』を持つ国日本ではどうでしょう。

平成17年に世界の医師の喫煙率が発表されていますがアメリカ、スウェーデン、ニュージーランド、オーストラリア、イギリスがのきなみ5%以下なのに日本は20%をゆうに超えています(Circulation Journal Vol. 69, Suppl. IV, 2005)。この事実は日本の医学部では今まで禁煙や防煙の教育がなされてこなかった証明です。しかし平成17年WHOタバコ規制枠組み条約(FCTC)の効力発生から日本も大きく変化し現在小中学校教育ではたばこは薬物として教えています。

禁煙防煙教育には吸えない環境が重要で、禁煙成功者の再喫煙防止にもとても有功です。喫煙者は薬物中毒状態ですので、ありとあらゆる理由をつけて喫煙場所を確保しようとします。理想的な喫煙室はとても高価な物になりますし、喫煙者は喫煙後数時間副流煙を体から出す事実からも科学的に完全分煙は不可能です。諸外国では喫煙室の設置は費用の無駄づかいとされ、現在禁煙治療には健康保険適用された有効な薬があり手軽に使用出来るので精力的に禁煙指導を行っています。

約30年遅れてはいますが、今後日本の禁煙活動も多くの先進国でそうであったように間違いなく社会運動化し、喫煙は恥ずべき行為となり品位を疑われるようになります。これから日本の医療界で中心的役割を果たすべき神戸大学医学部卒業生や関係者に喫煙者が存在することは本人にとって不幸であると同時に大学の資質の問題となることを銘記していただきたいと思っております。

最後になりましたが長年お付き合いさせていただきました諸先生方や医学科職員の方々に御礼を申し上げますとともに今後ますます神戸大学医学部医学科と後援会の発展を心から願っております。

予告

振り返れば六甲の山並
あの頃の友に会いたい

Kobe University Homecoming Day 2010

第5回 神戸大学 ホームカミングデイ

2010年

10月30日(土)

記念式典：
出光佐三記念六甲台講堂

卒業生の皆様・名誉教授の先生方等に現役学生・教職員と交流を深めていただく機会として、ホームカミングデイを開催いたします。今回で5回目となりました。ゼミや課外活動団体の同窓会などの同時開催もお待ちしています。皆様お誘い合わせの上、お越しください。

記念式典 10:30~

記念講演 坂井 信也氏 [昭和45年経済学部卒]
(阪神電気鉄道株式会社 代表取締役社長)

ティー・パーティー 12:00頃~ (記念式典終了後)

その他、第7回留学生ホームカミングデイ、学部企画、中山正實画伯の絵画展示、ホームカミングデイ市、学生イベントなどのイベントを予定しています。

プログラム内容は変更になる場合があります。
あらかじめご了承ください。

詳しくは、本年8月中旬に神戸大学ホームページでご案内の予定です。



お問い合わせ先

神戸大学企画部社会連携課

TEL: 078-803-5414 FAX: 078-803-5024

E-Mail: plan-hcd@office.kobe-u.ac.jp

写真集：<http://www.kobe-u.ac.jp/alumni/HCD.htm>



第4回ホームカミングデイの風景

ホームカミングデイ医学部医学科（10月30日）

医学部医学科は、午後に企画され、以下の内容です。大学間連携と病院と医学科の連携がテーマです。最近の数年間で意欲的な連携が進んでいますので、その一端をご理解いただけるでしょう。10年刻みでの重点学年（対象学年の表現は誤り）以外のどの学年の人も参加出来ます。また、18時30分に全企画が終了するように設定されていますので、終了後に、場所を変えての同窓会の開催を呼びかけています。卒業後、一度も同窓会を開催されていない学年には、是非、第一回の同窓会を開催していただけるようにお願いします。なお、本部企画の記念講演者、阪神電気鉄道株式会社の坂井 信也社長は、阪神タイガースのオーナーです。10月30日は、セリーグ制覇の後に待ち受ける重要な日のようで、早い時間に終わる事を前提に講演を引き受けられたようです。ただいま、首位ですから気の早い話ですが、まんざら意味のない事もない、あるいは、それぐらいの気合いは、常勝軍団として欠くべからずでしょうか？本部行事への参加は、極めて少ないので、虎キチの皆さん、午前中から出席されたらどうでしょう。



集合写真（神緑会館前）

医学部医学科

【受付】14:00～14:30（医学部神緑会館）

◆学部長挨拶

14:30～14:40（神緑会館多目的ホール）

◆講演

14:40～15:00（神緑会館多目的ホール）

座長：シグナル伝達医学分野 力武 良行 准教授

演題：「神戸薬科大学と神戸大学医学部との連携」

講師：江本 憲昭 戦略的客員教授（神戸薬科大学）

15:05～15:25（神緑会館多目的ホール）

座長：糖尿病・内分泌・腎臓内科学分野

梶 博史 特命准教授

演題：「愛仁会千船病院と神戸大学医学部との連携」

講師：田守 義和 戦略的客員教授（愛仁会千船病院）

◆キャンパスツアー／記念集合写真

15:40～16:20（病院・基礎棟）

◆講演

16:20～16:40（神緑会館多目的ホール）

座長：肝胆膵外科分野 堀 裕一 特命准教授

演題：「保健学研究科と医学研究科との連携」

講師：木戸 良明 兼務教授（保健学研究科）

16:45～17:05（神緑会館多目的ホール）

座長：総合臨床教育・育成学分野 山崎 峰夫 特命教授

演題：「兵庫県がんセンターと神戸大学医学部との連携」

講師：西村隆一郎 客員教授（兵庫県立がんセンター）

◆懇親会

17:10～18:30（神緑会館）

神緑会会長挨拶

学生挨拶（対象学年の代表・学生自治会会長・大倉山祭実行委員長）

平成22年度医学部医学科学生海外派遣要項

研究交流の実績のある海外の大学医学部への派遣を通じて、学生の国際感覚を滋養する事を目的に、平成11年度から実施しています。当初は、交流センターの活動の拠点がアジアでしたから、その枠を抜けるには多くの教授陣の努力が必要でした。アメリカは、日本の他の大学でも派遣希望が多く、また、4年間での教育のためにあまり歓迎されなかったが、次第に増加し3大学に広がっています。神緑会からの援助額は以前のままの金額ですが、非常に感謝されています。今後、全派遣者の紹介と代表数名の報告を掲載します。

平成22年度医学部医学科学生海外派遣要項

国名	大学学部等名	派遣予定人数等	派遣担当教員
タイ	マヒドン大学	① 4人（シリラジ病院、ラマチボディ病院各2名） ② 4週間（参考） ③ 熱帯地域の疾患の基礎及び臨床の見学（参考）	川端真人教授
シンガポール	シンガポール大学	① 3人 ② 6週間（参考） ③ 臨床の見学（参考）	林 祥剛教授
アメリカ合衆国	ハーバード大学 又はタフツ大学	① 2人 ② 2週間 ③ 医学部及び公衆衛生大学院における社会医学及び臨床研究基礎科学に関する研修（参考）	鎌江伊三夫客員教授 林 祥剛教授
韓国	東亜大学校	① 2人 ② 2週間（参考） ③ 臨床、基礎医学教室への配属（参考）	林 祥剛教授
マレーシア	国際医療大学	① 2人 ② 4週間（参考） ③ 教育病院での内科系病院実習に参加（参考）	白川利朗准教授
オーストラリア	西オーストラリア大学 （注1参照）	① 2人 ② 2週間（参考） ③ 教育病院の臨床実習見学（参考）	具 英成教授
アメリカ合衆国	ハワイ大学 （注2参照）	① 1人 ② 4週間 ③ 教育病院の臨床実習見学内科（Kuakini 病院）	林 祥剛教授
アメリカ合衆国	ピッツバーグ大学	① 2人（宿舎の関係で男子のみ又は女子のみの何れかになる） ② 2週間（4月～6月の間）（参考） ③ 教育病院の臨床実習見学（参考）	秋田穂東教授

医学部クラブ紹介

フットサル部

はじめまして！神戸大学医学部フットサル部です！神戸大学フットサル部と聞くと全国大会優勝した全学の体育会フットサル部を思い浮かべる方もいると思いますが、我々は医学部フットサル部です！毎週金曜日に体育館で練習してます。練習が週に一回なのでノリはサークルっぽいと思われがちですが、ところがどっこい意外に真剣です！

リーグにも所属していて、月に二回対外試合をやってます。

今年(2010年)は一回生が5人入って念願だったキーパーも入ってくれました！

これからも明るく楽しくやっていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします！



神戸大学医学部フットサル部一同

編集後記



このニュースレターは神緑会員相互の情報提供、情報交換の場と考えております。些細なことでも結構ですので、他の会員の皆さんに提供したい情報、お知らせ等ございましたら神緑会ニュースレター編集部 (E-mail shinryoku@med.kobe-u.ac.jp) までご連絡ください。また、当ニュースレターに対するご意見、ご要望などもご連絡いただけるよう併せてお願い申し上げます。

編集委員：

久野克也	昭和48年卒
山崎峰夫	昭和56年卒
三浦靖史	平成元年卒
吉田 優	平成4年卒
小林和幸	平成9年卒
篠原正和	平成10年卒